

相模原市私立保育園・認定こども園 園長会
日本保育学会第76回大会口頭発表報告 2023年5月14日

保育の魅力を醸成する保育実習

～相模原市における保育者と実習生が共に育つ実習アンケート調査から～

山下 博(たいようこども園)、片山 知子(和泉保育園)、神尾 美香子(認定こども園モモ)
三上 祐理枝(RISSHO KID'Sきらり)、金元 あゆみ(相模女子大学)

2023年6月22日

本日の流れ

- 1, これまでの経緯
- 2, 問題①
- 3, 問題②
- 4, 目的
- 5, アンケート項目 構成
- 6, 保育者と実習生の回答
- 7, 分析方法の説明1.2.3
- 8, アンケートの分析
- 9, まとめ
- 10, 展望と今後の課題

1, これまでの経緯

2022年度(令和4年度)年度~2023年度(令和5年度)

- ・調査研究部テーマを決める
テーマ「良い実習の場の構築」
6月 会員園の施設長対象にアンケート実施
8月 アンケート分析
9月 実習担当者と養成校学生へのアンケート実施において準備
10月 実習担当者と養成校学生へアンケート調査実施
11月~2月 実習担当者と養成校学生へアンケート調査結果分析

2023年

- 5月 日本保育学会 第76回大会 口頭発表
- 6月 園長会定例会にて報告

2, 問題 ①

■ 保育現場の喫緊の課題 ■

保育者の質の向上と保育者の養成



待機児童減少

慢性的な保育者不足



量の拡充から質の向上へ

- 「保育士の職業の魅力を広く地域や社会に発信するとともに、養成段階の取組を充実させること」
～保育の現場・職業魅力向上検討会の報告書～
- 「実習施設の主たる実習指導者は、当該実習施設内の他の保育士等とも緊密に連携をすること」
～指定保育士養成施設の指定及び運営の基準～

質の向上と保育者の確保に向けた、養成段階からの保育施設と養成校におけるさらなる連携が求められている。

3, 問題 ②

■相模原市の取り組み■

保育者ステップアップ研修（平成31年～） → 質の向上を図る

研修機会が増える中で、受講した保育者から聞かれた変化の声

保育の変化

実習生への関わり方に対する意識の変化

実習指導の側面だけではなく、保育実習（以下、実習）を通じて

「**自己の保育の省察が深まっているとの見方が増えてきている**」というもの

保育者と実習生の関わりが、保育の質の向上に寄与するのみならず、実習の場が共に育つ土壌になるのではないかと考えられる。

4, 目的

保育者と実習生を対象に、実習への意識や意欲に焦点を当てたアンケート調査を実施し、保育者と実習生が共に保育の魅力醸成する実習の在り方を探る。

方法

実習を実施した相模原市内の民間団体保育所・認定こども園の保育者128名、養成校の学生(1校、135名)にそれぞれWebによるアンケート調査を依頼した。

■調査項目■

- 実習への意識・意欲に関する5つの項目にどの程度当てはまるかを尋ねた(5件法)。
- 各項目の具体例を自由記述にて記入してもらった。

■分析方法■

ポジティブ群(4以上)の自由記述を対象に分析した。分析にあたっては、KH-Coder3(樋口耕一)を用い、多次元尺度構成法及びクラスター分析により、項目ごとの評価を行った。

■調査時期■

令和4年9月24日から11月30日

5, アンケート項目の構成

各項目について、ポジティブ群(4・5/5段階)の自由記述を対象に分析

	保育者	実習生
Q1	実習生との <u>日々の振り返り</u> を行う中で、自分自身の保育の振り返りにもなっている	保育者と <u>日々の振り返り</u> を行う中で、自身の学びを深めることができた。
Q2	実習生の <u>日誌を読む</u> ことで、新たな気づきがある(子ども姿への気づき等)	保育者に <u>日誌を読んでもらう</u> ことで、学びや気づきを伝える意欲が高まった。
Q3	実習生の <u>日誌にコメントを書く</u> ことで、自身の考え(保育の意図や大切にしていること等)をまとめることができる	保育者からの <u>日誌へのコメントを読む</u> ことで、保育の意図や大切にしていることへの理解が深まった。
Q4	実習生の <u>質問に答える</u> ことで、自分自身の学びや、学ぼうとする意欲に繋がっている	質問に対する <u>保育者の応答</u> によって、学ぶ意欲が高まった。
Q5	<u>実習生との関わり</u> の中で、学生の姿から学んだことがある	<u>保育者との関わり</u> の中で、保育者の姿から学びを深めることができた。

6, 【表2】 保育者と実習生の回答

Q	平均値 (標準偏差値)		
	保育者 (n=128)	実習生 (n=116)	
1	4.66 (0.55)	4.51 (0.76)	
2	4.26 (0.90)	4.38 (0.77)	
3	4.35 (0.79)	4.59 (0.65)	*
4	4.19 (0.95)	4.62 (0.55)	***
5	4.17 (0.94)	4.61 (0.55)	***

7, テキストマイニングって?



[参照:テキストマイニング \(TextVoice\) による分析事例> 家でのご過ごし方について | MyVoiceのプレスリリース](#)

7, 分析方法の説明 | テキストマイニングとは

- ・文章から意味のある情報や特徴を見つけ出そうとする技術の総称

～引用:末吉美喜(2019)『テキストマイニング入門ーExcelとKH-Coderでわかるデータ分析ー』オーム社, p.204～

□文字列を対象としたデータマイニングのことで単語の出現頻度・出現傾向や時系列などを解析し、有益な情報を取り出す分析方法である。

テキスト : 文章
マイニング: 採掘

7, 分析方法の説明2 KH Coderとは

- テキスト型データの計量的な内容分析 (計量テキスト分析) もしくはテキストマイニングのためのフリーソフトウェアである。各種の検索を行えるほか、どんな言葉が多く出現していたのかを頻度表から見るができる。さらに多変量解析によって、一緒に出現することが多い言葉のグループや、同じ言葉を含む文書のグループを見ることで、データ中に含まれるコンセプトを探索できる。また一部の文書群に注目した場合に、その文書群に特に多く出現する言葉をリストアップすることで、その文書群の特徴を探索できる。あるいは分析者が指定した基準によって、文書の分類を自動的に行うこともできる。
- 多変量解析の具体的な手法としては、対応分析 (数量化Ⅲ類)・クラスター分析・多次元尺度構成法 (MDS)・自己組織化マップ・共起ネットワーク・機械学習 (ナイーブベイズ) などに対応している。

7, 分析方法の説明3 多次元尺度構成法 (MDS)

- 語と語の類似度 (関連性) をマップ上に視覚化し、テキストデータ全体を要約する方法

～引用: 末吉美喜 (2019) 『テキストマイニング入門—ExcelとKH-Coderでわかるデータ分析—』オーム社, p.204～

- 語と語の類似度を二次元 (または三次元) のマップ上の相対的な位置関係 (近い・遠い) によって判断する
- 抽出語の出現頻度を、円の大きさによって判断する
- 共起ネットワークは「特定の語」と「特定の語」 (または外部変数) の共起関係から関連性の強さを表すため、文章中によく出現する「語」であっても共起関係が少ない語は表現されない場合もあるが、MDSは純粋な出現頻度をもとに「語」と「語」の関係を把握したい場合に使用される
- 共起ネットワークの図は「語と語が線で繋がっているかどうか」に意味があるが (位置関係には意味がない)、MDSは語と語の相対的な位置関係 (似たものは近くに、異なるものは遠くに) によって類似度が表現されている

Q1

実習生との日々の振り返りを行う中で、自分自身の保育の振り返りにもなっている (N=125)

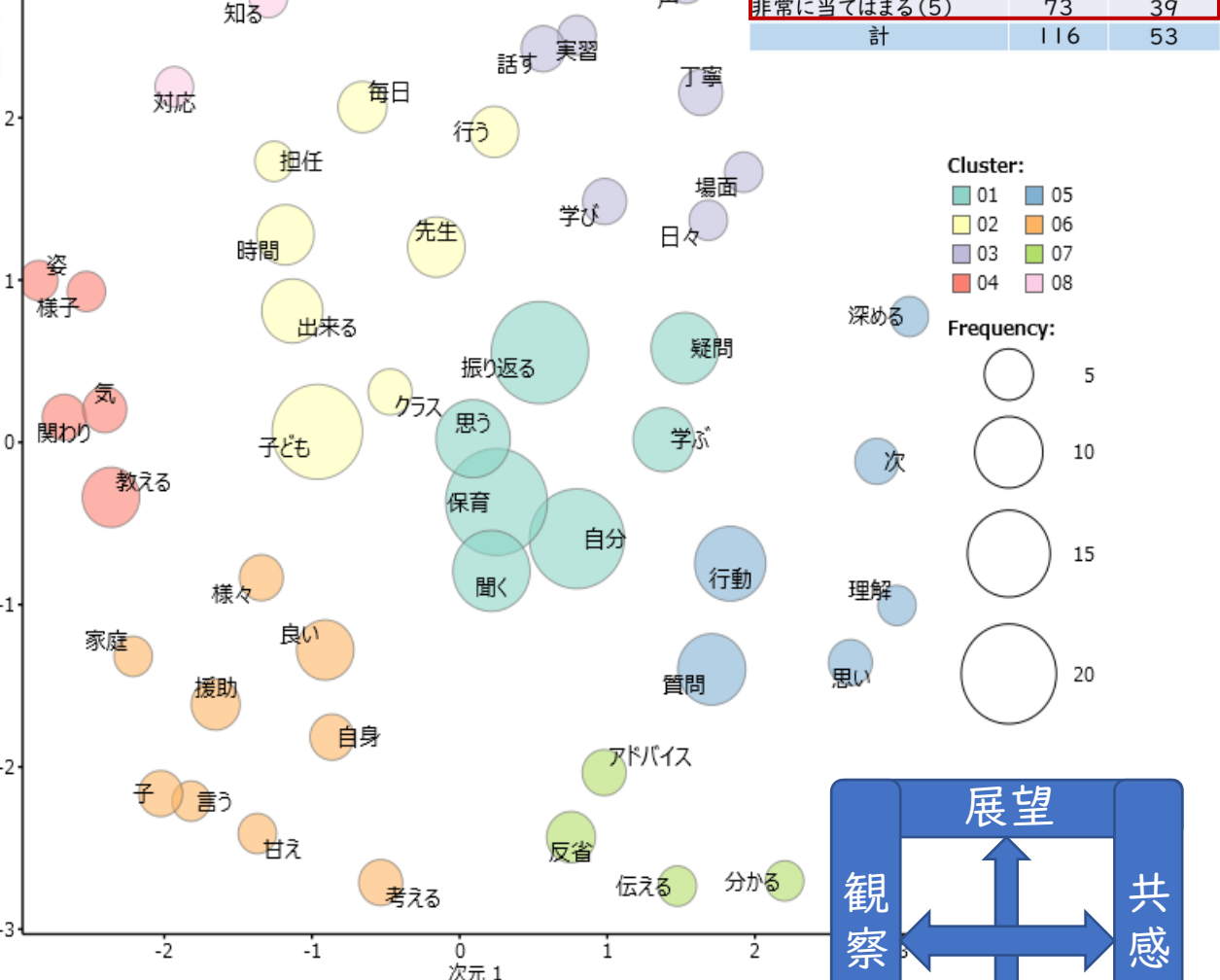
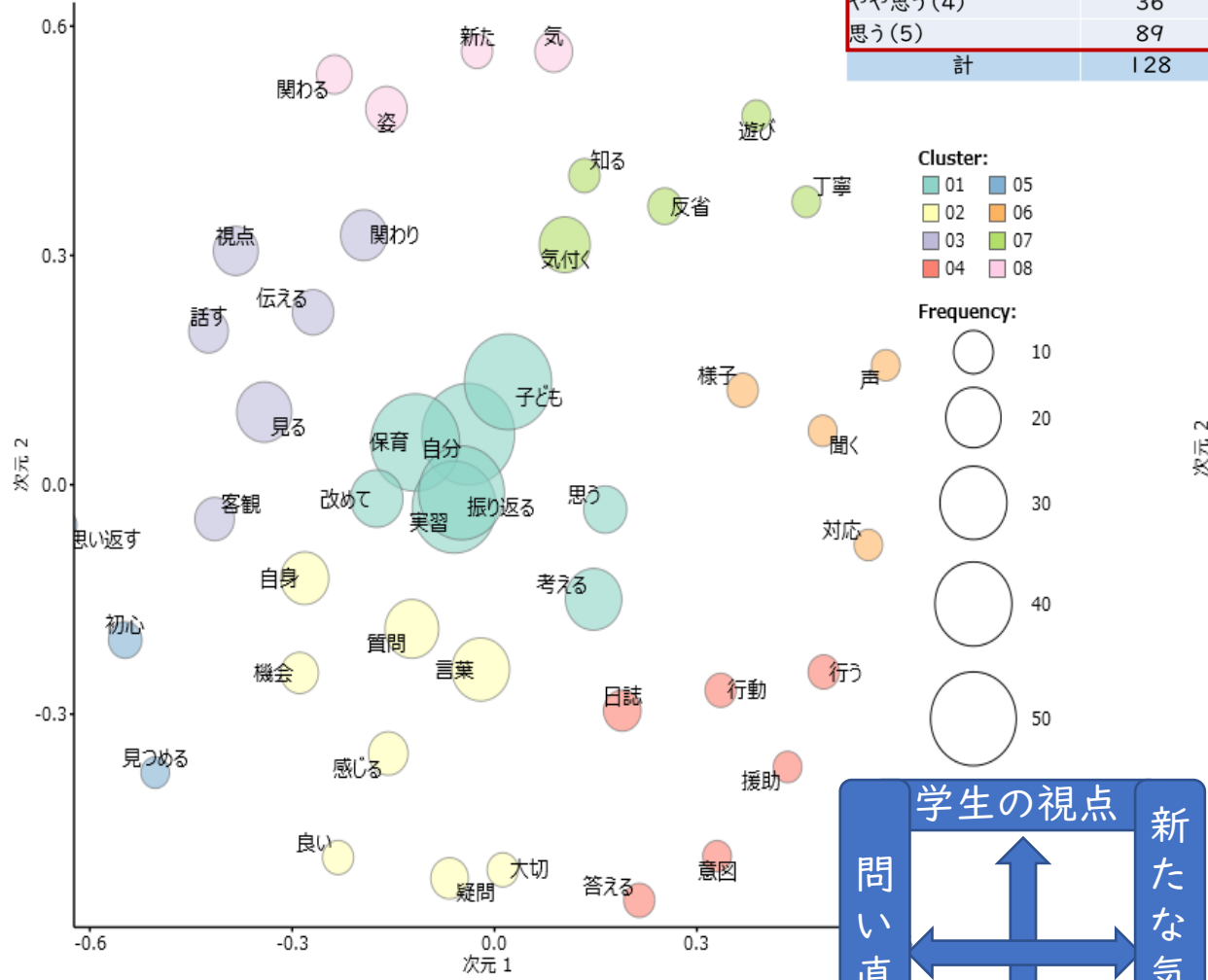
保育者と日々の振り返りを行う中で、自身の学びを深めることができた。(N=45)

平均 (標準偏差) : 4.66 (0.55)

平均 (標準偏差) : 4.51 (0.76)

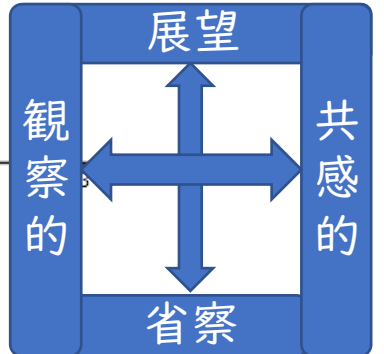
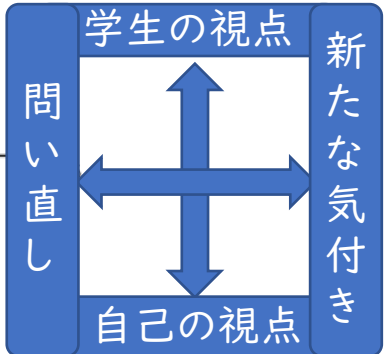
(得点)	回答・記述数
思わない(1)	0
あまり思わない(2)	1
どちらとも言えない(3)	2
やや思う(4)	36
思う(5)	89
計	128

(得点)	回答数	記述数
全く当てはまらない(1)	0	0
あまり当てはまらない(2)	5	5
どちらともいえない(3)	4	3
やや当てはまる(4)	34	6
非常に当てはまる(5)	73	39
計	116	53



保育者

実習生



Q1【保育者】クラスターの特徴 <振り返り>

01	質問に答えることで客観的に自分の保育を振り返る
02	自分の理想とする保育の再確認(再構築)の機会になる
03	保育の魅力との出会い直し。新たな気づきや視点、子どもの姿と出会う
04	学生や子どもへの丁寧に関わる大切さを認識する
05	自身の子どもへの対応を吟味する
06	学生の疑問を共に考えながら、新たな視点に気付く
07	自分自身や子どもの行動から自己を見つめなおす
08	学生の視点から保育の意図に気付く

Q1【実習生】クラスターの特徴 <振り返り>

01	疑問を聞くことで、具体的な学びを得る
02	クラス担任と話すことで、子どもや援助への理解が深まる
03	いろいろな場面での声かけの仕方(丁寧な応答)を知る
04	気になる子どもの姿・様子への関わり方を知る
05	行動(子ども・保育者)の背景にある思いを知り、次へ繋げたり学びを深められたりする
06	多様な視点で考える大切さや良かった点への評価を知る
07	分からないことに対するアドバイスをもらう
08	対応について知る

■ 保育者にとっての「振り返り」

実習生を通じ自身の保育を再確認し、日々の保育の魅力と出会いをおしている。

■ 実習生にとっての「振り返り」

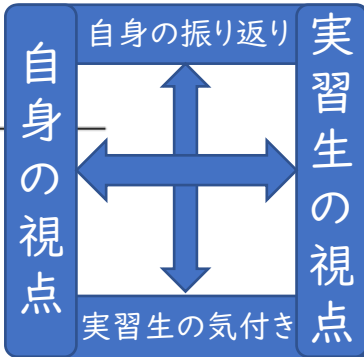
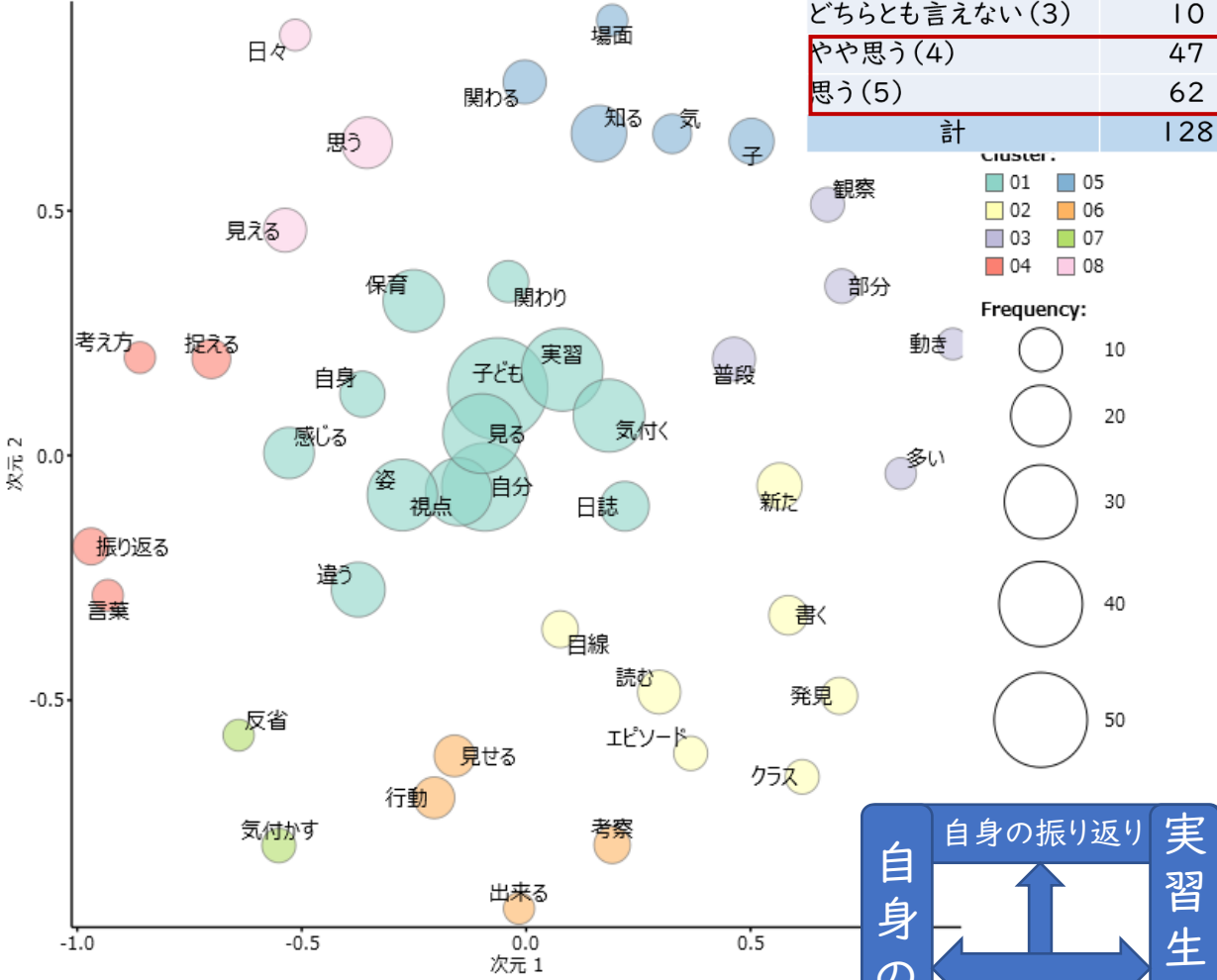
保育者を通じ知らなかった視点や背景を知る機会となっている。互いを通じ保育を深める機会となっている。

Q2

実習生の日誌を読むことで、新たな気づきがある(子どもの姿への気づき等) (N=109)

平均(標準偏差): 4.26 (0.90)

(得点)	回答・記述数
思わない(1)	1
あまり思わない(2)	8
どちらとも言えない(3)	10
やや思う(4)	47
思う(5)	62
計	128

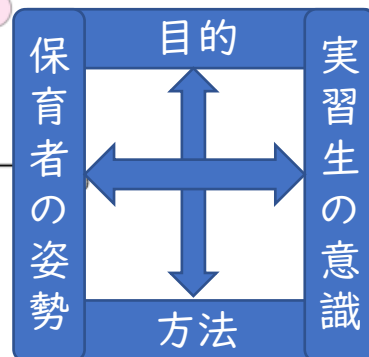
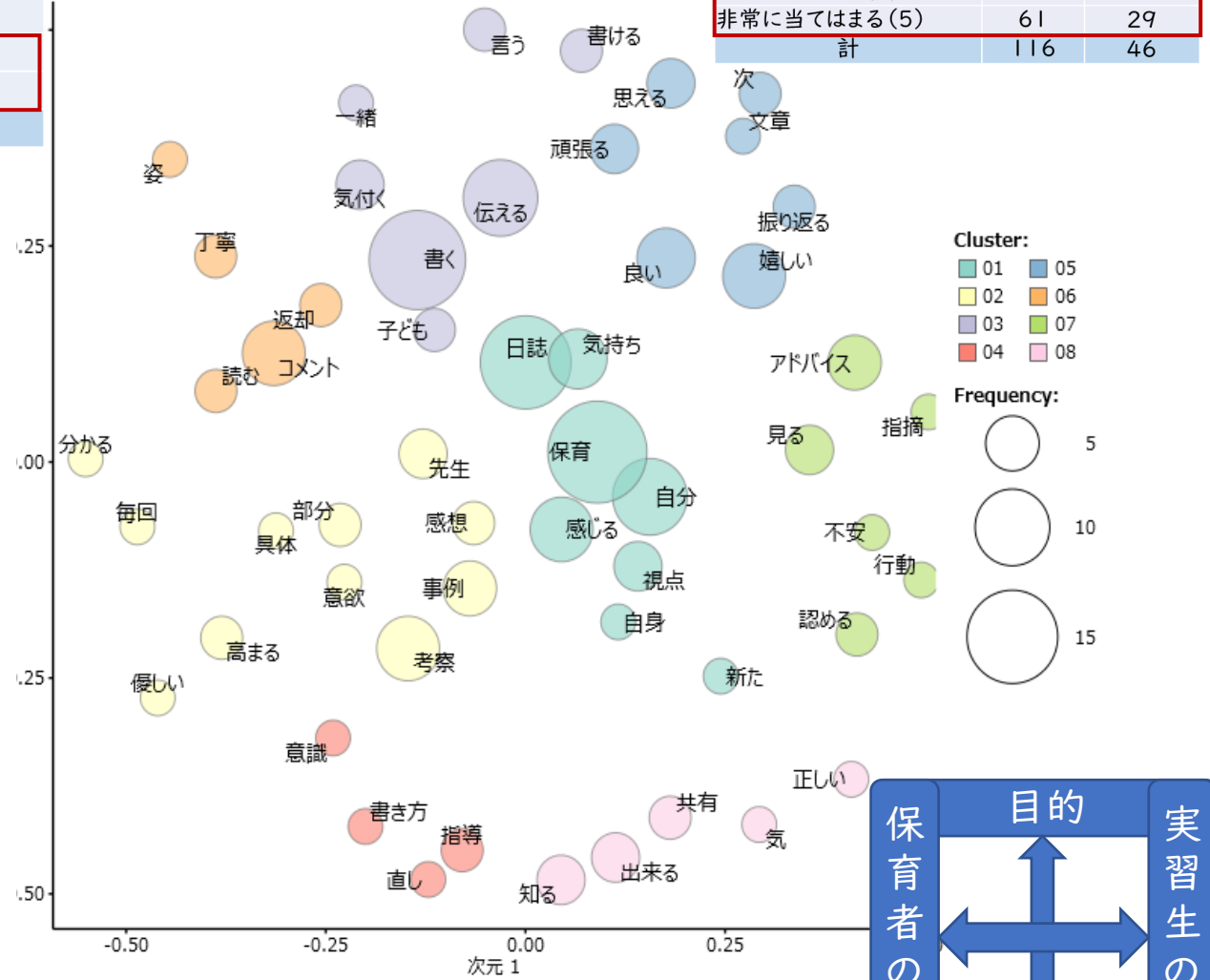


保育者

保育者に日誌を読んでもらうことで、学びや気づきを伝える意欲が高まった。(N=40)

平均(標準偏差): 4.38 (0.77)

(得点)	回答数	記述数
全く当てはまらない(1)	0	0
あまり当てはまらない(2)	4	3
どちらともいえない(3)	9	3
やや当てはまる(4)	42	11
非常に当てはまる(5)	61	29
計	116	46



実習生

Q2【保育者】クラスターの特徴 <日誌を読む>

01	実習日誌から新たな視点に気付く
02	実習生と子どもの関わりから改めて子どもとの姿を視る機会になる
03	子どもの新しい姿に出会う機会になる
04	自己と向き合い自身の保育観を整理する
05	実習生と子どもとの関わりから、自身の保育を振り返る
06	実習生と関わりから新たな子どもの姿に出会う
07	実習生の丁寧な関わりから自身の保育を見つめなおす
08	普段は気付かなかった子どもの姿を知る

Q2【実習生】クラスターの特徴 <日誌を読んでもらう>

01	保育者や自身の視点に気付く
02	事例と考察などの各項目の伝わり方を意識する
03	伝え合うことへの意識が高まる
04	添削や助言から書き方を理解する
05	他者に伝わる喜びや手ごたえを得る
06	保育者からの丁寧なコメントにより意欲が高まる
07	受容・助言により不安を解消し新たな視点を獲得する
08	保育者と気持ちを共有する

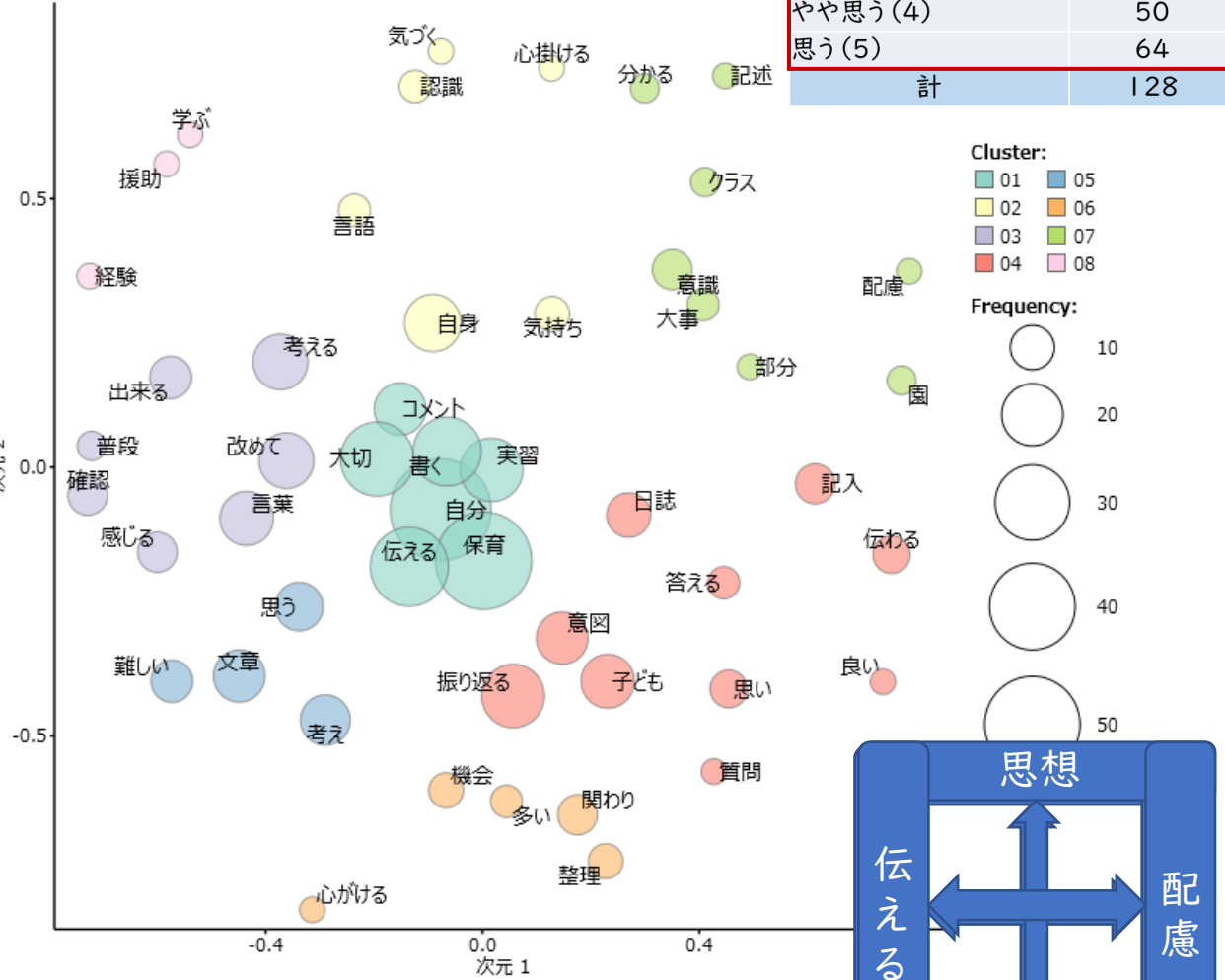
- 保育者：実習生の日誌を通じて、自己の感性で視ていたものとは違う視点を持ち自己の保育を振り返っている。また、新たな視点に出会うことで、保育の喜びや気づきを感じている。普段慣れてしまっていることを改めて学びなおしている機会となっている。
- 実習生：「日誌＝添削」「書く－読む」という方法論的・一方向的なものではないことが読み取れる。相手に「伝わる」喜びや手ごたえが「伝える意識」を高めている。また、日誌を通じた「気持ちの共有」「新たな視点の獲得」も意欲に繋がっている。

Q3

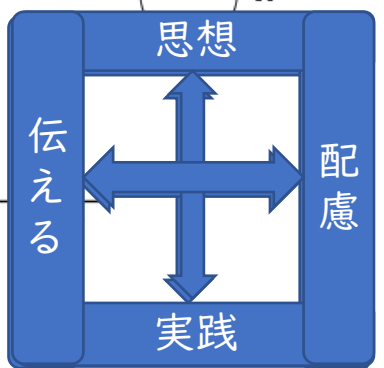
実習生の日誌にコメントを書くことで、自身の考え(保育の意図や大切にしていること等)をまとめることができる (N=114)

平均(標準偏差): 4.35 (0.79)

(得点)	回答・記述数
思わない(1)	1
あまり思わない(2)	3
どちらとも言えない(3)	10
やや思う(4)	50
思う(5)	64
計	128



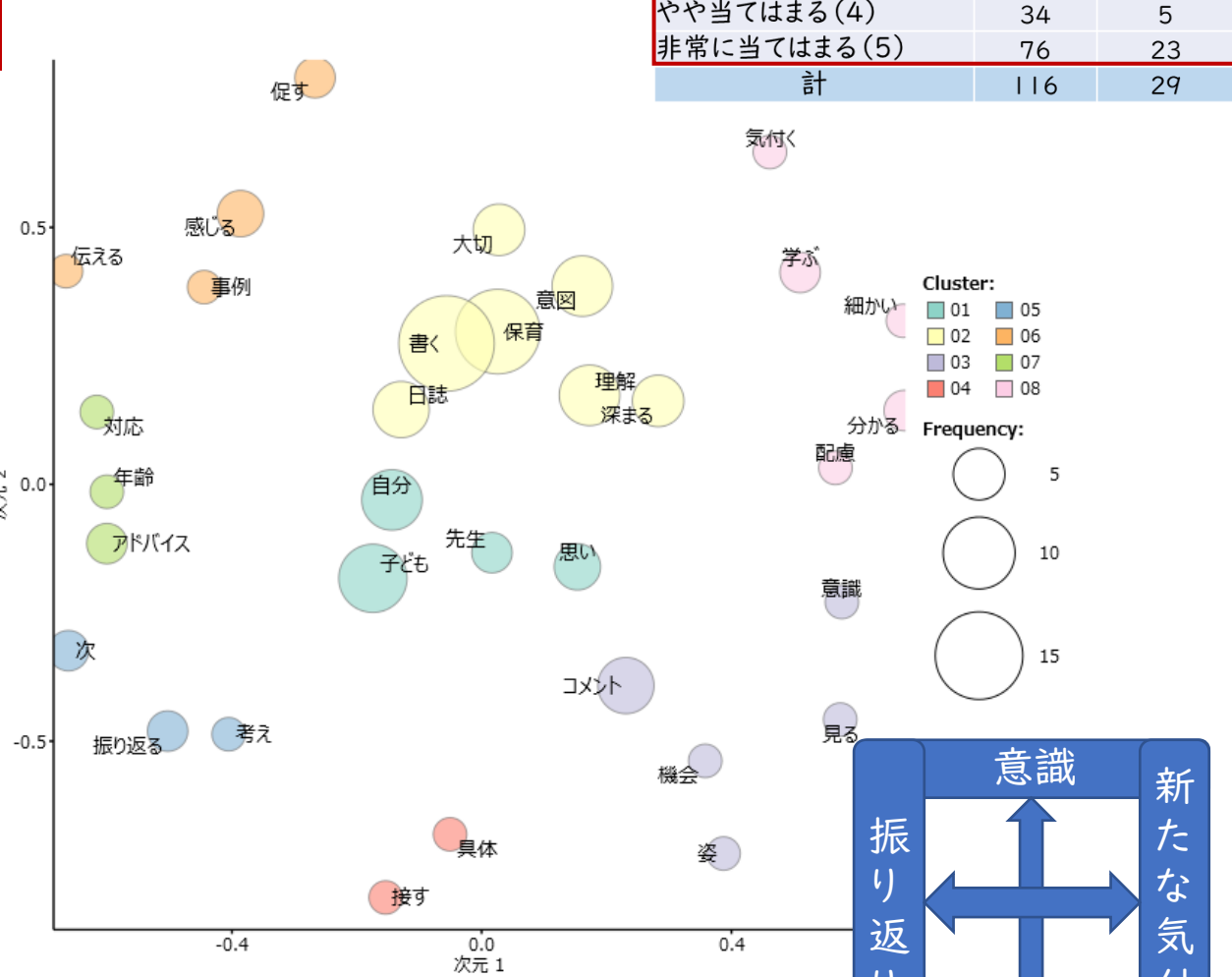
保育者



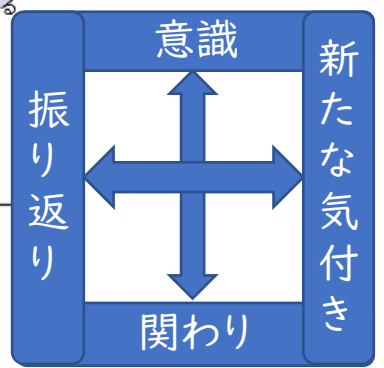
保育者からの日誌へのコメントを読むことで、保育の意図や大切にしていることへの理解が深まった。 (N=28)

平均(標準偏差): 4.69 (0.46)

(得点)	回答数	記述数
全く当てはまらない(1)	1	1
あまり当てはまらない(2)	0	0
どちらともいえない(3)	5	0
やや当てはまる(4)	34	5
非常に当てはまる(5)	76	23
計	116	29



実習生



Q3【保育者】クラスターの特徴 <日誌コメントを書く>

01	保育で大切にしていることを改めて確認する
02	自身の保育観を確認し、OUTPUTする
03	子どもの姿を通じて自分の意図を確認する
04	実習生の質問を通じ自身の保育を振り返る
05	学生に丁寧に関わるように意識する
06	自身の保育観を改めて振り返る
07	自分が大切にしていることに気付く
08	コメントを通じ自分の保育を振り返る

Q3【実習生】クラスターの特徴 <日誌コメントを読む>

01	自身の見とりに対する保育者の考え・子どもの思いを知る
02	保育者の意図や大切にしていることを知る
03	日々の振り返りの補完になっている
04	保育者が子どもに接する際の具体的な思いを知る
05	自身の考えへの受容により意欲が高まる
06	事例などの記述に対する保育者の捉えを知る
07	発達や個々の子どもの対応への助言を得る
08	保育者の細かい配慮や気付きを知る

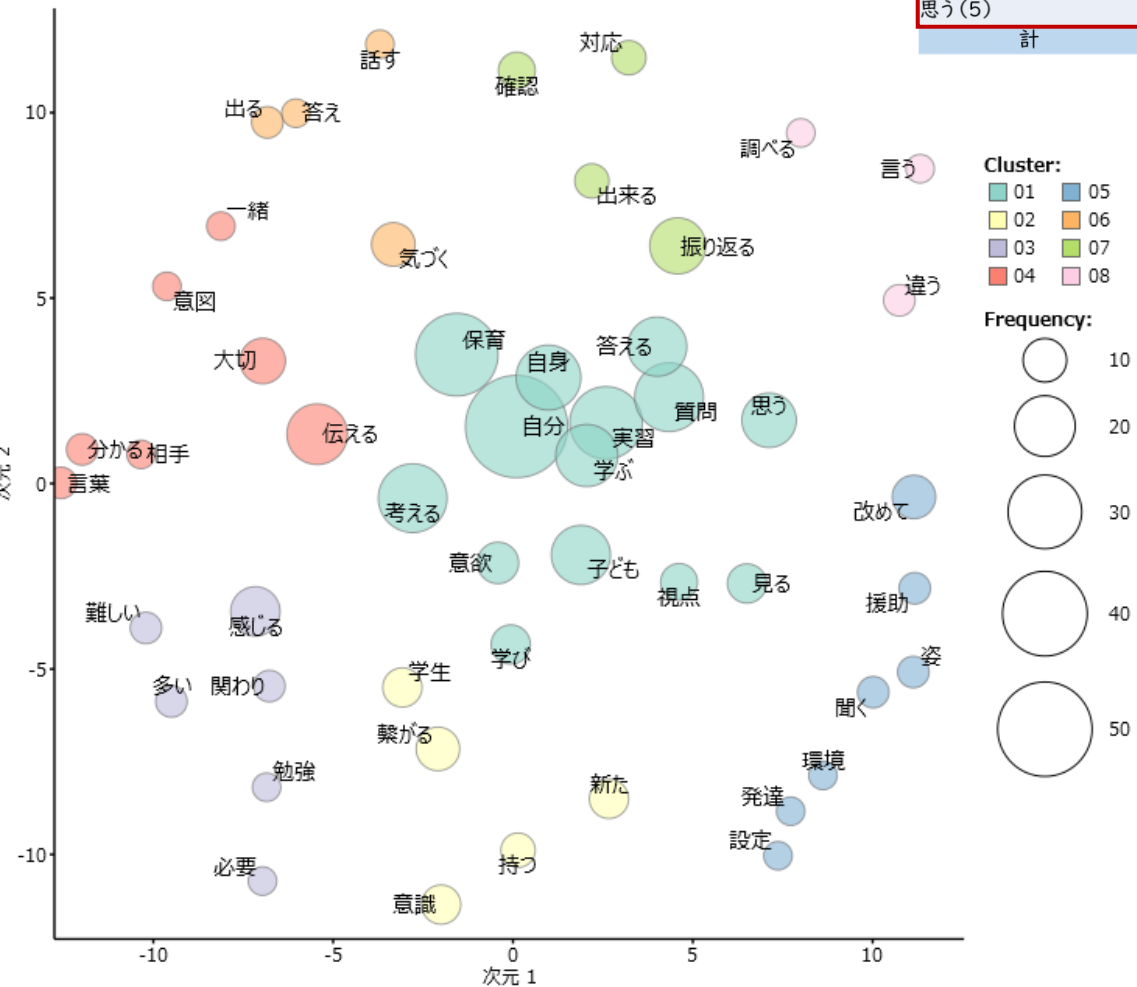
- 保育者：日誌にコメントを書くことを通じて自身の保育を振り返っている事がわかる。振り返りの方法として実習生や、実習生と子どもとの関係性を通じて振り返っている事が特徴的である。コメントを書くことだけではなく、多様な感性を通じて振り返る場となっている。
- 実習生：自分の捉えに対する保育者の考えを知ったり、自分にはなかった考え方を知ったりする内容が特徴的。日々の振り返り（保育者との反省会）の補完にもなっている。日誌は自己と他者の見とり・思いを重ね合わせるツール
→その作業が深まる日誌とは？（課題）

Q4

実習生の質問に答えることで、自分自身の学びや、学ぶ
うとする意欲に繋がっている (N=106)

平均 (標準偏差) : 4.19 (0.95)

(得点)	回答・記述数
思わない(1)	4
あまり思わない(2)	3
どちらとも言えない(3)	15
やや思う(4)	49
思う(5)	57
計	128

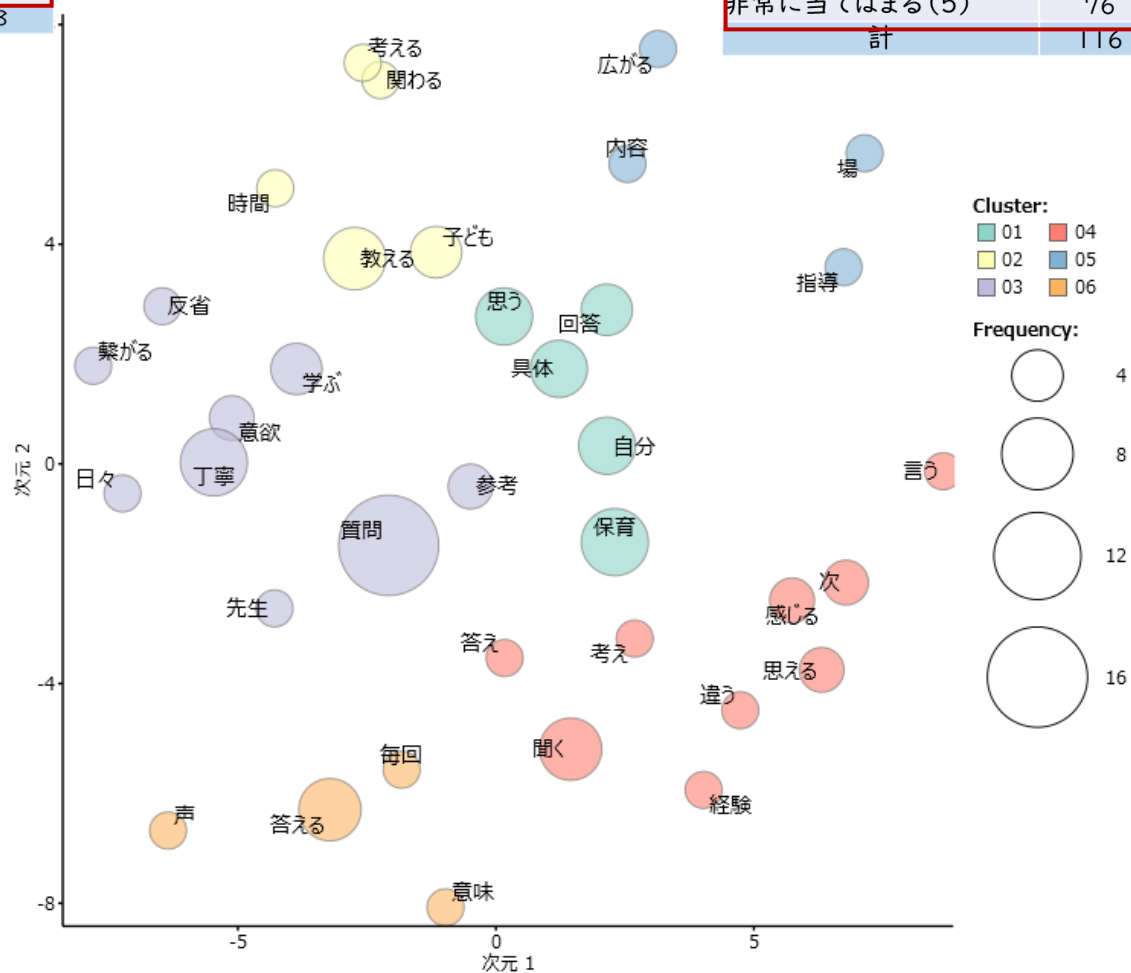


保育者

質問に対する保育者の応答によって、学ぶ意欲が高まった。
(N=26)

平均 (標準偏差) : 4.68 (0.47)

(得点)	回答数	記述数
全く当てはまらない(1)	0	0
あまり当てはまらない(2)	0	0
どちらともいえない(3)	4	2
やや当てはまる(4)	36	5
非常に当てはまる(5)	76	21
計	116	28



実習生

Q4【保育者】クラスターの特徴 <質問への応答>

01	改めて子どもの関わりや、保育を深く考えたい気持ちが高まる
02	学生からの質問に答えることで、意図を伝えながら、自身の保育観を省察する
03	学生からの視点を知り、自らの保育に気づける機会になる
04	専門性の言語化の難しさを感じつつ、その必要性も感じる
05	言葉による保育の可視化の機会になる
06	環境設定や発達を通し、子どもの経験と学びを読み解く
07	対話力や伝達力の重要性を知る
08	質問に答えることで、保育の本質や園の方針を考える機会になる

Q4【実習生】クラスターの特徴 <質問への応答>

01	具体的・新しい視点の回答を得る
02	子ども理解や対応への助言を聞ける
03	質問への丁寧な応答を得る
04	多様な考えや経験を聞く
05	質問内容から派生して多様な話題に広がる
06	保育者の意図を知る

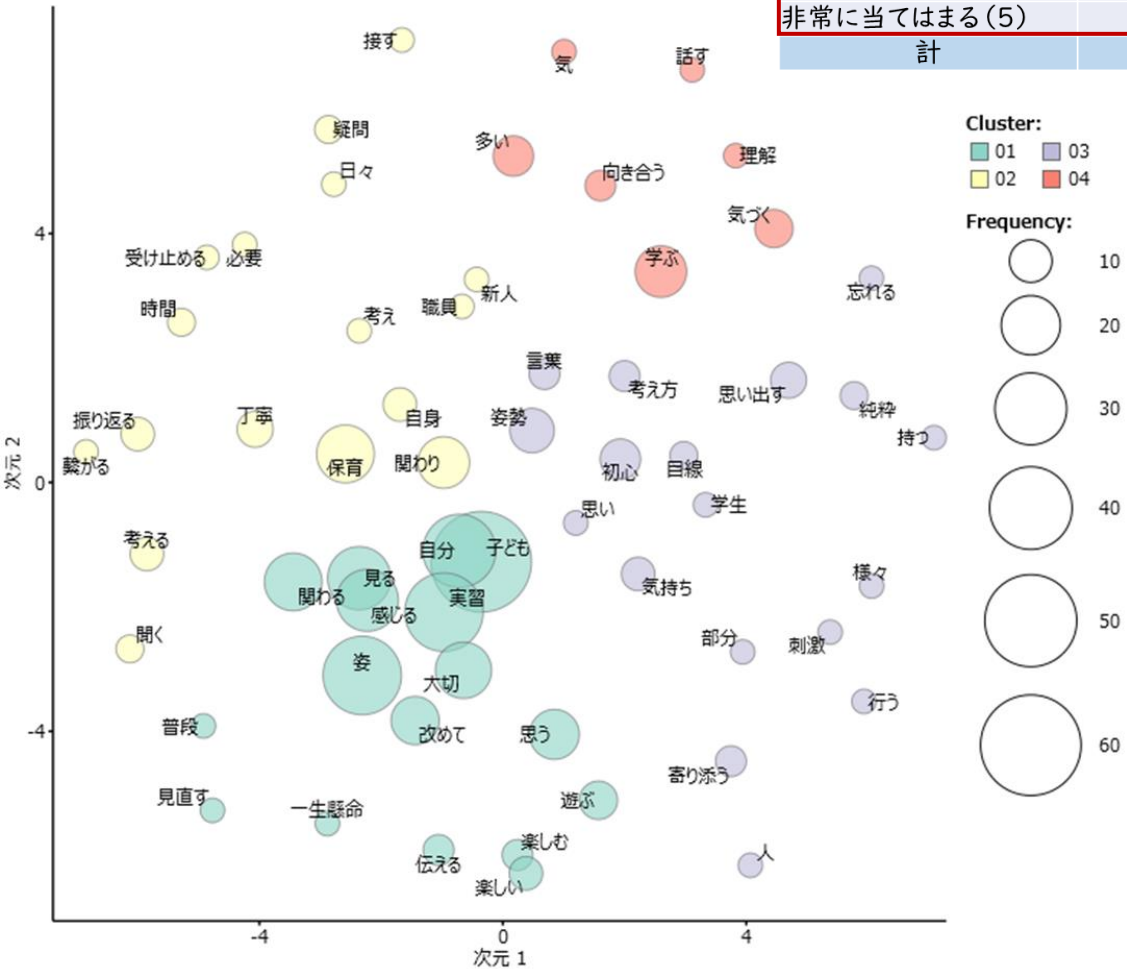
- 保育者：子どもの心情や思考への読み解きが深まる、保育者としての姿勢を再認識する、子どもと関わる楽しさを感じる等、保育者の育ちの機会になっている。
→伝達から双方向的な話し合いへ
- 実習生：「質問に対する答えを知る」ということだけではなく自分や複数の保育者の考えと照らしたり、「聞く側・答える側」だけではなく「共に」問いを広げたりしている。
→応答的な場を作る重要性

Q5

実習生との関わりの中で、学生の姿から学んだことがある
(N=104)

平均(標準偏差): 4.17(0.94)

(得点)	回答・記述数
全く当てはまらない(1)	0
あまり当てはまらない(2)	0
どちらともいえない(3)	0
やや当てはまる(4)	47
非常に当てはまる(5)	57
計	104

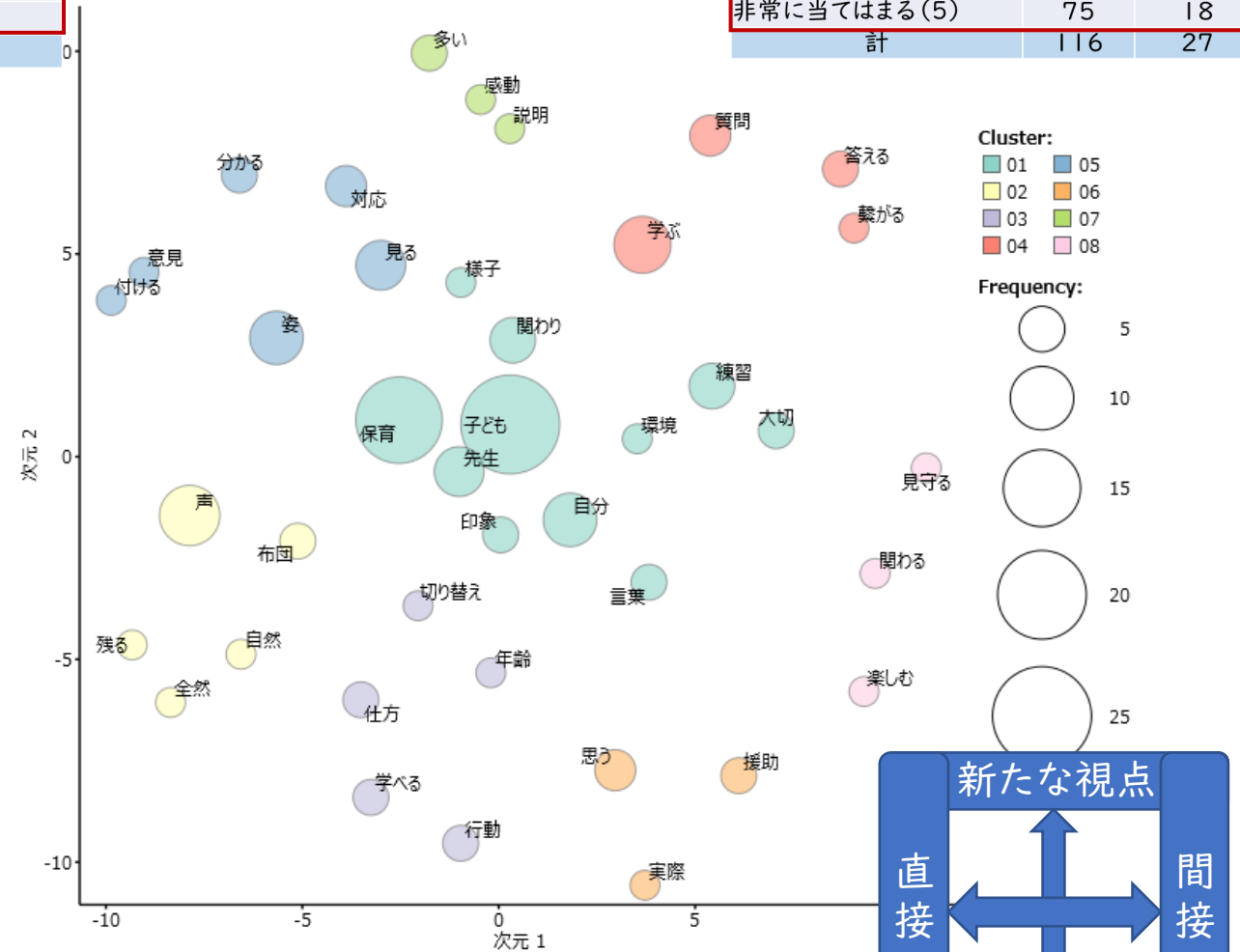


保育者

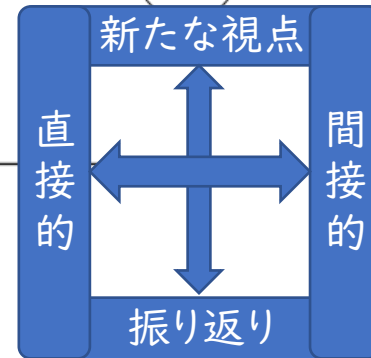
保育者との関わりの中で、保育者の姿から学びを深めることができた。(N=26)

平均(標準偏差): 4.61(0.55)

(得点)	回答数	記述数
全く当てはまらない(1)	0	0
あまり当てはまらない(2)	0	0
どちらともいえない(3)	4	1
やや当てはまる(4)	37	8
非常に当てはまる(5)	75	18
計	116	27



実習生



Q5【実習生】クラスターの特徴 <関わりからの学び>

01	実習生が保育を楽しむ姿から、保育者もさらに保育を楽しもうとする気持ちを持ち、自身の保育を見つめなおすことができる
02	実習生からの子どもに対する様々な疑問に答えることで、より深く保育を考えることへと繋がっていく
03	実習生のアイデアや子どもに対するアプローチが保育者にとって良い刺激となり、初心を思い出させてくれるきっかけとなっている
04	実習生がもたらす新鮮な視点と子どもたちに向き合う姿勢から、保育者が新たな気づきを得ている

Q5【実習生】クラスターの特徴 <関わりからの学び>

01	子どもの実態に応じた環境づくりや関わりの大切さを知る
02	子どもの気持ちを動かす声掛けの仕方を知る
03	発達や場面に応じた援助の仕方を知る
04	質問の引き出し方・広げ方を知る
05	子ども同士を繋ぐ・個々に応じる対応を知る
06	援助に対する実習生の考え、思いを知る
07	援助と意図の繋がりを知り、心が動かされる
08	見守る・保育を楽しむ姿勢の大切さを知る

■保育者：「楽しむ」「考える」「初心」などの語から保育に対する心情を再構築している機会となっている。

■実習生：「～の仕方」といった保育スキルだけではなく、保育者の保育に向かう姿勢やあり方から保育観を学んでいる。【心動かされる体験】

→それぞれの視点や技量における保育の奥行きを深める機会になっている。

保育者

- ①子どもたちと遊ぶときに本気で楽しんでいて子どもたちも楽しそうにしていたので、自分自身も楽しんで保育したいと思った。
- ②日誌などで小さな疑問が書いてあったりすると、小さなことに疑問を持てることが素敵だなと感じ、私も日々もっと色々なことに疑問をもち子どもと関わる中で自分自身の学びにしていきたいと感じている。
- ③実習生ならではの子どもへの接し方や保育への思いにふれ、初心にかえることが多い。
- ④一人一人にじっくりと向き合い観察すること。責任実習等で自分でやってみたいという提案を持ってくる学生からチャレンジする精神を学んだ。そこから子どもの新たな一面が見られたことがあった。

実習生

- ①街探検で〇〇屋さんの前を通ったとき、チラシを持って帰る姿が印象に残った。後にラミネートして保育室に掲示しており、環境の作り方が素敵だと思った。
- ⑦配慮していることなどもお話ししてくださる先生がいて、子どもの最善の利益を考えている保育者の姿にとっても感動したと共に、子どもと保育者の応答的な関わりについても学びを深めることができました。
- ⑧子どもたちが言い合いをする場面でも、すぐに関わるのではなくしばらく見守っていたのが印象的だった。しばらくすると自分たちで解決しており、保育者が見守ることの大切さを学んだ。
- ⑧先生方が、子どもたちと関わることを心から楽しんでいることが、普段の子どもたちとの生活や、振り返りの時にいただいた言葉の中から伝わってきて、自分も自然に楽しみながら実習をすることができた。

9,まとめ

(Q1) 日々の振り返り(Q4) 質疑応答

- ・互いの感じ方や考え方を語り合う・聴き合う場へ →
- ・伝達から双方向な話し合いへ
- ・多様な気づきをもたらす
- ・いかに語り、いかに聴くか

(Q2) 日誌を読む—読んでもらう(Q3) 日誌コメントを書く—読む

- ・互いにとって、伝える・伝わる喜びを生む日誌へ →
- ・伝わる喜びが伝える意欲に

(Q5) 関わりからの学び

- ・「指導する—される」関係から「育ち合う」関係へ →
- ・保育に向かう姿勢が影響し合う
- ・両者の「憧れ」「理想」が築かれていく

実習は育ち合う場である認識をもち、育ち合いに繋がる内容になっているか吟味する。
「心の動き」に重きを置いて交わし合う→その人らしい保育が構築される場へ

10, 展望と今後の課題

■展望

実習は「指導するーされる」一方向的な関係性による営みではなく、互いの在り方やまなざしの向け方が相互に影響し合う「育ち合う」営みといえる。

こうした育ち合う実習を高めていくことが保育の魅力の醸成にも寄与し得ると展望される。

■今後の課題

- 実習生の回答を増やす
- ネガティブ群の分析
- 今回分析対象としなかった質問項目の分析
- 本結果を踏まえた実習内容を検討・検証